第２学年２組　体育科学習指導案

令和８年１１月１１日（水）第５校時　体育館
在籍児童数　男子１２名　女子６名　計１８名
熊谷市立奈良小学校

１　単元名　みつけて！つないで！とっぱしよう！ゲートサッカー
ボール蹴りゲーム（ゲーム・ボールゲーム）

２　運動の特性

（１）一般的特性

〇ボール蹴りゲームは、ボールを足で扱う運動であるため、ゲームを楽しむためにある程度の技能の習得が必要である。攻撃側は、シュートを決めることができた時に楽しさや喜びを味わえる運動といえる。また、ドリブルで相手をかわしたり、パスをしながらボールを運んだりする楽しさも味わえる運動である。

〇守備側は、相手のパスをカットしたり、シュートを防いだりした時に楽しさや喜びを味わえる運動である。また、仲間と攻め方を工夫してゲームをすることが楽しい運動でもある。

（２）児童から見た特性

ボール運動の楽しさや喜びを感じる要因	ボール運動を遠ざける要因
・ボールを思いっきり蹴ったり、パスが通ったりしたとき。 ・自分たちが選んだ攻め方で得点を決めたり、ゲームに勝ったりしたとき。 ・チームの仲間と協力することができたとき。	・思ったところにボールを蹴ったり、止めたりすることができなかったとき。 ・ボールに触れなかったり、得点を入れられなかったりして、チームが負けてしまったとき。

３　児童の実態

<u>当日紙ベースを配布します。</u>

４　教師の指導観

（１）知識及び技能

本単元では、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームを行うことを目指す。「足で蹴る・止める」動作を中心にボール操作を身に付けさせたい。授業の導入では、簡単なボール操作ができる運動を多く取り入れ、ボールを蹴るために、「トン」（軸足はボールの横に踏み込み、つま先を蹴る方向に向ける。）「スゥッ」（蹴る方の足を少し後ろに引く）「キック」（蹴る瞬間は、ボールの中心を捉える）など、足でのボール操作ができるように指導していく。さらに、ゲートサッカーを通して、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームを行うことを目指す。また、動かない障害物（段ボール）から動く守備者へと教材を段階的に発展させることで、児童がゲームの特性を理解し、突破するために必要な技能を身に付けられるようにする。

（２）思考力,判断力,表現力等

本単元のボールゲームでは、ゲームを通して、どうしたら、ゲートを突破することができるのかを考え、攻めでは、相手のいないところを見つけることが大切である。本学級の児童は事前アンケートの結果から、みんなで協力して運動することが好きと答えている。そのため、友達のよい動きをまねしたり、お互いにアドバイスをさせたりしながら活動に取り組ませたい。児童のよい動き方を全体で共有し、ゲームに必要

な動きや状況判断をよく理解させ、チームで攻め方を工夫し、選択しながら楽しくゲームができるようにしていきたい。また、自分でよい動きを見つけたり、友達のよい動きをまねして活かしている児童やチームを称賛したりしながら、全体にも広げていく。メインゲームでは、段階的に教材を構成することで児童が「空いている場所を見付けること」を捉えながら、ゴールするためによりよい位置へ動こうと考えながら行うことを意識させたい。

（3）学びに向かう力,人間性等

本学級の児童は、事前アンケートの結果から、仲間と作戦を考えることが好きであるという児童が多くいる。メインゲームの中で作戦を立てたり、互いの考えを伝え合ったりしながら、協力してゲームに取り組めるようにする。さらに、練習やゲームの中でお互いを認め合い、励まし合える言葉がけを積極的に行い友達との肯定的な関わり合いを身に付け、仲良く運動することの楽しさを味わえるようにしたい。さらに、一人一人の児童がボールに触れる機会、友達と関わる機会を多く設定することで、個人の力を発揮しながらチームで約束やきまりを守って仲良く運動することの楽しさも味わわせたい。

5　単元の目標

（1）ボールゲームの行い方を知るとともに、簡単なボール操作やボールを持たない時の動きによって、ゴールに向かってボールを蹴る攻めと守りのあるゲームをすることができるようにする。

〈知識及び技能〉

（2）相手のいない場所を見付けて動いたり、突破するための動きを選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えたりすることができるようにする。〈思考力, 判断力,表現力等〉

（3）運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。〈学びに向かう力,人間性等〉

6　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ボールゲームの行い方について言ったり、実際に動いたりしている。 ②簡単なボール操作やねらったところにボールを蹴り、得点することがきる。 ③ボールを蹴ったり、止めたりすることができる。	①楽しくゲームができる場や得点の方法、攻め方を選んでいる。 ②相手のいない場所を見付け、そこを突破するために動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	①場の安全に気を付けている。 ②ゲームに進んで取り組もうとしている。 ③順番や規則を守り、誰とでも仲良くしようとしている。 ④用具の準備や片付けを協力して行おうとしている。

7　単元の計画

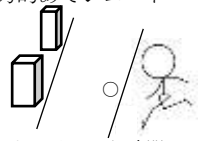
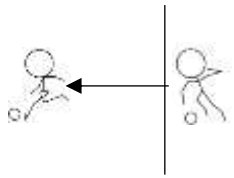
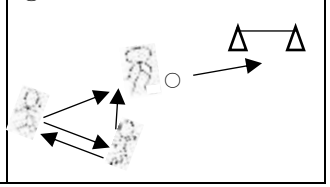
（1） 領域（ゲーム・ボール運動）の取り上げ方

	ボール投げゲーム	ボール蹴りゲーム	鬼遊び
第１学年	１１時間	５時間	９時間
第２学年	１０時間	７時間	８時間

（2）領域の内容（ボールゲーム）と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1	的当てキックゲーム	・ねらったところに緩やかにボールを蹴って、的にあてること。
2	ボール蹴りゲーム	・攻めと守りを交代しながら、近くの味方にパスをしたり、ボールを持ってゴールに走りこんだりするような簡単なゲームを行うこと。

（3）指導と評価の計画（7時間扱い）本時は○印　5／7時

時間	1	2	3	4	⑤	6	7
ねらい	学習の進め方やルールを知り、単元の見通しを持とう。	ボールの蹴り方を練習し、ゲームの仕方を覚えよう。	段ボールの空いているところを見付け、そこを突破しよう。	守備者の動きを見て、空いているところを見付けよう。	相手のいない場所を見付け、そこを突破するために動きを選ぼう。	これまでの学習を生かして、チームで突破する場所や動きを考え、みんなで突破しよう。	これまでの学習を生かして、みんなが楽しめるゲームをしよう
指導内容	・学習の進め方 ・安全な準備､片付けの仕方 ・全力タイムの仕方	・ボールの蹴り方 「トン」「スウッ」「キック」 ・ドリブルの仕方 ・ゲームの仕方	・段ボールの配置 ・空いている場所の見付け方 ・突破するための動き	・守備者の動き ・空いている場所の見付け方 ・ボールを持たない時の動き	・突破する場所の選択 ・チームでの動きの選択 ・話合いの伝え方	・チームに合った動きの選択 ・攻め方、守り方 ・話合いの仕方	・大会のルール ・応援の仕方 ・勝敗を受け入れること ・学習のまとめ
学習過程	1集合・服装チェック・整列・挨拶・健康観察を行う。2準備運動を行う。						
	〈オリエンテーション〉 3単元の内容と学習の仕方や進め方に見通しをもつ。 ・1時間の流れの確認 ・準備と片付けの確認 ・学習カードの記入の仕方 4チーム編成を行う。 5場の設定をする。 6ボールの蹴り方を確認する。 7的あてボール蹴りゲームを行う。 8用具の片付けをする。 9本時のまとめと振り返りをする。 10整理運動をする 11挨拶をする。	3全力タイム（2時間目…①②　3時間目…②③　4時間目…③④　5時間目…④） ①ちょびちょび蹴り 足元にボールがあることを意識して、少しずつ蹴りながらコート内を自由にドリブルする。 笛の合図でボールを足の裏で止める。 ②全力的あてシュート  シュートラインから時間いっぱい的（段ボール）を当てる。 ③全力ドリブルシュート  ④パスパスシュート  4本時のねらいを確認する。 5メインゲーム①を行う。（動かない守備・前半） ・守りチームは、守備ゾーンにチームで考えて段ボールを置く。 ・一つの守備ゾーンにおける段ボールは4個。その際、段ボールを上に重ねることはなしとする。 ・攻めチームは3人でドリブルやパスをしながら、段ボールを避け守備ゾーンを突破し、ゴールする。 6作戦タイム（チーム→全体共有） 7メインゲーム①（動かない守備・後半）を行う。 5メインゲーム②（前半）を行う。 4時間目…1つ目の守備ゾーンは、段ボールを4個置く。2つ目の守備ゾーンには、守備者（1人）が入る。守備ゾーンには、突破されないように左右動くことができる。 5時間目…1つ目、2つめの守備ゾーンともに、守備者（1人）が入る。守備ゾーンには、突破されないように左右動くことができる。 6時間目…1つ目の守備ゾーンに守備者（1人）、2つ目の守備ゾーンには、守備者（2人）が入る。守備ゾーンには、突破されないように左右動くことができる。 ・攻めチームは3人で、ドリブルやパスで守備をかわし、守備ゾーンを突破し、ゴールする。 ・守備ゾーンを突破するごとに1点追加される。ゴールすると、全部で3点の得点になる。 ・攻めチームは、全員がボールに触らないとゴールすることができない。 6作戦タイム（チーム→全体共有） 7メインゲーム②（後半）を行う。					3本時のねらいを確認する。 4チームごとに立てた作戦の練習を行う。 5ゲートサッカー大会を行う。（6時間目と同じルール） 6単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。 7用具の片づけをする。 8整理運動をする。 9挨拶をする。
		8用具の片付けをする。9本時の学習の振り返りをする。10整理運動をする11整列・挨拶をする。					

評価計画							
	知・技		③	②	①		
	思・判・表					②	③	①
	態	①			③		②	④
	方法	観察　カード	観察　カード	観察　カード	観察　カード	観察　カード	観察　カード	観察　カード
	場面	2・6・9	7・9	5・7	5・7	6・7	6・7	4・5

8　本時の学習と指導（５／７時）

(1)　ねらい

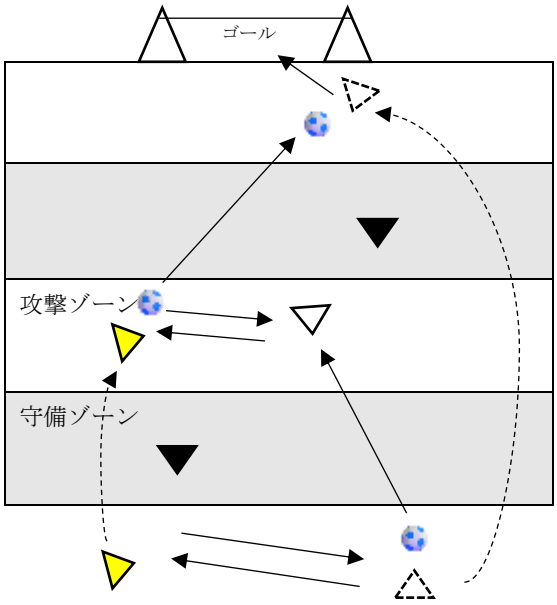
相手のいない場所を見付け、そこを突破するために動きを選ぶことができるようにする。

〈思考力，判断力，表現力等〉

(2)　準　備

・サッカーボール　カラーコーン　コーンバー　ビブス　段ボール　作戦ボード

(3)　展　開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導　◆評価規準）
導入 15分	1　集合、整列、挨拶、健康観察をする。 2　準備運動をする。 3　全力タイムを行う。	○素早く集合、整列し、元気よく挨拶をして、気持ちよく学習が始められるような雰囲気づくりをする。 ○児童の顔色や様子、服装を確認し、安全に運動ができるようにする。 ○正しい動きで準備運動ができるよう、様子を見ながら声掛けをする。 ○一人ひとりに寄り添い、運動の様子を見守りながら適切な声掛けで正確に行えるようにする。
展開 25分	4　本時のねらいを確認する。 相手がいないところを見つけて、みんなでつないでとっぱしよう！ 5　メインゲーム②・前半を行う。  ・１チーム３人で攻め、守備者は１・２人とする。 ・攻めは、ドリブルやパスを使って、２つの守備ゾーンを突破する。 ・守備者は、自分の守備ゾーンの中を左右に動いて守る。 ・１つの守備ゾーンを突破すると１点、ゴールをするとさらに１点とする。 ・３人がボールに触ってからでないと、ゴールすることはできない。 ・攻めと守りを時間で交代して行う。 ・守備者は、ボールを奪うのではなく、ボールを通る場所を防ぐことを基本とする。 6　作戦タイム 7　メインゲーム②・後半を行う。	○ゲームに出ていない児童の役割やボールが隣のコートに入った時にどうするかを確認し、安全にゲームが行えるようにする。 ○ルールやマナーを守ってゲームしているかを確認し、必要に応じて指導する。 ○意欲的にパスをもらう動きをしている児童や得点係やボール係をしている児童を称賛し、学習への意欲を高める。 ◆相手のいない場所を見付け、そこを突破するために動きを選んでいる。（観察・カード） 【思考・判断・表現】 △努力を要すると判断される状況（C）の児童への指導の手立て ・自分の動きをチームのメンバーに聞き、どのように動くかを考えるように助言する。 ・作戦ボードを再度確認するよう助言し、自分の動きを可視化させる。 ◎十分満足できると判断される状況（A）の児童の具体的な姿 ・守備者の位置を見て空いている場所を判断し、その理由を仲間に説明しながら動きを考えている。 ○作戦ボードを使って、前半のゲームで見付けた守備者の位置や空いている場所を確認し、どこから突破するとよいか、どのように動くとよいかチームで考えられるようにする。

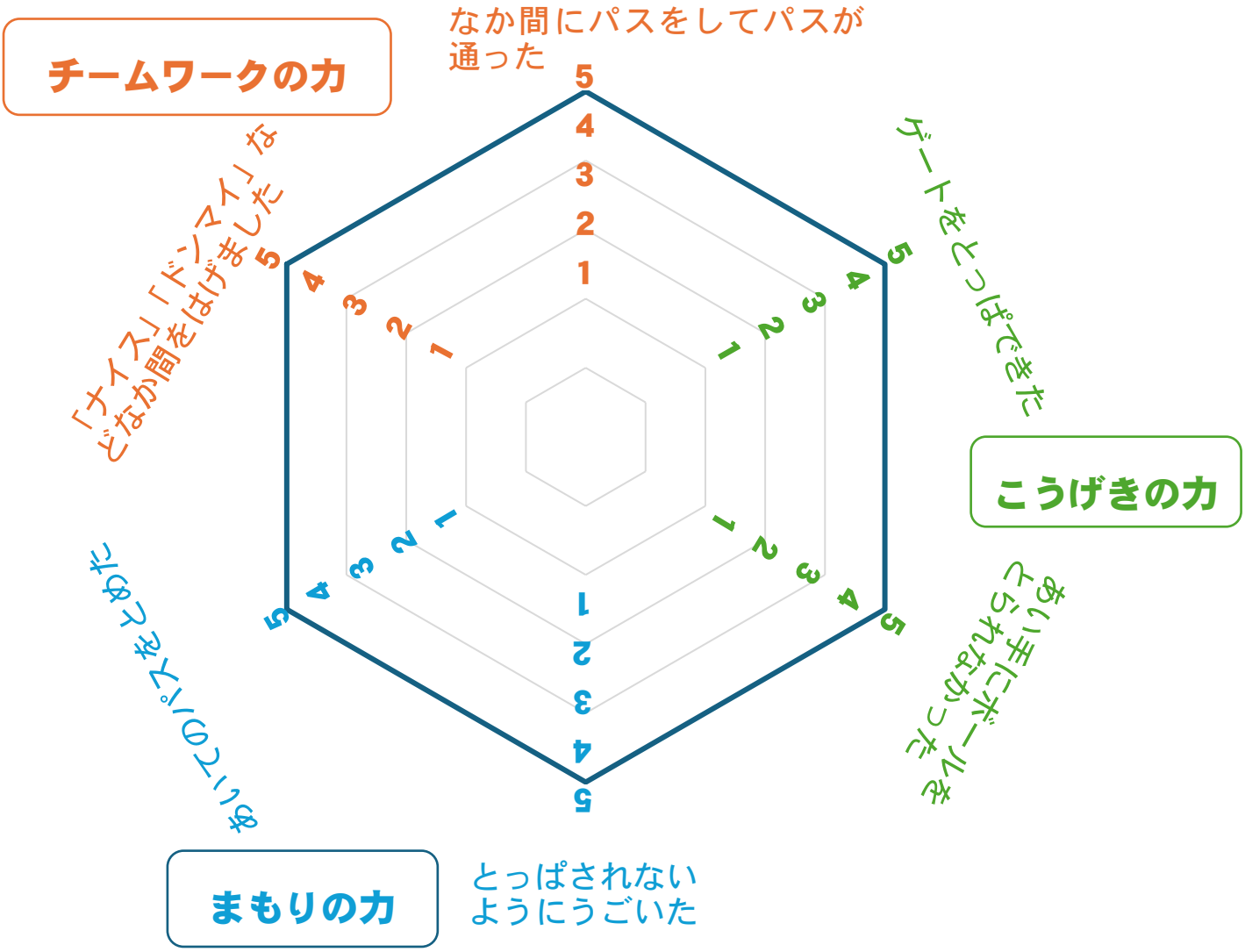
整理 5分	8 用具の片付けをする。 9 本時の学習の振り返りをする。 10 整理運動をする 11 整列・挨拶をする。	○分担通りに安全に片付けられるよう見守り、声掛けをする。 ○同じチームや対戦チームのメンバーのよい動きを振り返り、学習カードに記入させる。 ○学習カードに記入したことに付いて全体で共有し、ねらいが達成できた児童を称賛し、次時の学習への意欲付けをする。 ○使った筋肉をほぐすように、整理運動を行う。 ○表情や動きから健康状態を把握するとともに、元気よく挨拶して授業を終えられるようにする。

９　資料

学習カード

ボールけりゲーム・ふりかえりカード

～見つけて！つないで！とっぱしよう！ゲートサッカー～



め	あい手がいないところを見つけて、みんなでつないでとっぱしよう！
